地域の一員である自覚を高め、地域貢献につなげる事例

交通

小学校　第６学年　総合的な学習の時間

授業づくりのポイント

○ 道路の幅が広く交通量が多いにもかかわらず、地域の交通事故の発生率が他地域に比べてとても少ないことに気付かせる。
○ 地域の交通事情について調べたり、警察署や商店街でインタビューをしたりしながら、交通事故発生件数が少ない理由について考える。
○ 地域の人々の交通安全への取組や交通事故を防ぐための工夫について、グループごとに調べることができるようにする。
○ 調査活動から分かった地域の交通安全について、地域の方に向けて発信するとともに、意見交流を行うことを通して、自分たちも地域の一員として交通安全に貢献していこうとする思いをもてるようにする。

１　題材名　「地域が守る交通安全」

２　目　標

地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を理解し、危険回避能力の育成を図るとともに、安全文化の継承に貢献しようとする態度を育む。

３　教材化の視点

交通安全についての課題として、交通安全に対する意識の低さが挙げられる。交通安全についてのアンケートの結果から、日頃、自転車のヘルメットを使用している児童が２０％未満だったことが分かった。使用しない理由には、「面倒だから」、「意味がないから」などがあり、安全に対する意識の低さが見られた。また、車道に広がって歩く姿や、自転車の並進通行をする姿などが見られる。そのため、児童一人一人の交通安全に対する意識の改善を図るとともに、児童が自主的に交通安全について考えていけるようにする必要があると考えた。

指導計画（７時間扱い）

時間	主な学習活動	安全教育の視点に立った留意点
1	○警察署から地域の交通安全の取組についての話を聞き、地域の安全について問題意識をもつ。 	◎警察署管内の交通安全の状況と地域の取組について知る。 ◎実際に地域に出て、地域の安全文化が育まれている状況を捉えようとする意欲をもたせる。 ◎情報収集活動のグループ編成を行う。
2・3	○大通りから、駅前商店街、商店街通りへと続く交通事情を調査するとともに、インタビュー等により情報収集を行う。 ○それぞれの商店街が交通安全のためにどのような配慮や工夫をしているのか、写真に撮り交通状況を捉える。	◎地域の交通安全が、駅前商店街や通り沿いの商店街では、どのように実現されているのか、調査活動を通して気付かせる。 ◎必要に応じて、繰り返し地域に出て情報収集する。 ◎収集した情報を、ワークシートにまとめさせる。

4 ・ 5	○情報収集した資料から、この地域に訪れるたくさんの人々に配慮した交通安全のシステムや環境作りについて整理し、まとめる。 ○地域の子供たちや高齢者への見守りの視点からも、まとめる。 ○優れている点についてアピールポイントとしてまとめる。	◎グループごとに活動して得たことを模造紙等にまとめる。その際、聞き取りの情報や写真を効果的に使って発表資料としてまとめさせる。 ◎実際に地域に出てみて、どのように見方や考え方が変わったのか、記述させる。
6	○作成資料を使い、駅前商店街、商店街では、実際にどのような交通安全に取り組む工夫や努力があったのか、まとめたものを発表し、地域の方と交流する。 ○発表内容について地域の方の感想を聞く。	◎地域の方から児童の学びについて感想を聞くとともに、地域で取り組む交通安全の努力や工夫を紹介してもらう。
7 （本時）	○自分たちの地域について自分の考えをもつ。 ○地域の子供として、今後どのように地域の交通安全に貢献していけばよいかを発表する。 ○ゲストティーチャーと交流する。	◎安全学習を通して、自分たちが地域の一員であり、地域の交通安全に貢献していくことの大切さを認識させる。

指導事例（第７時／７時間）

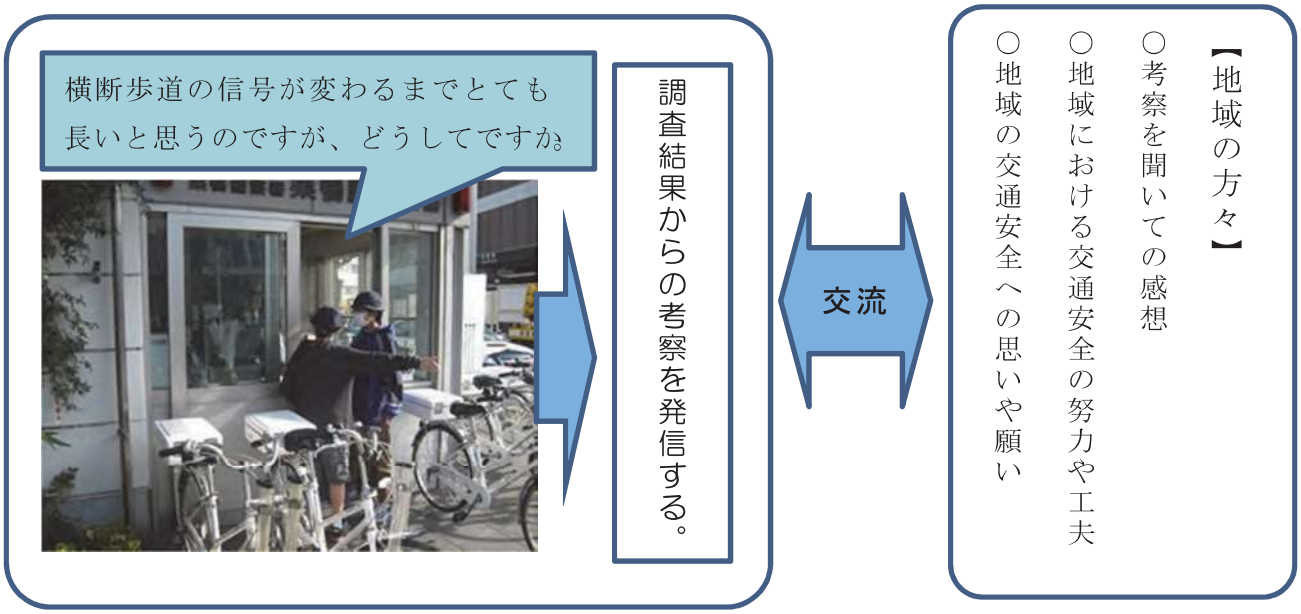
１　ねらい

自分たちの地域の交通安全にどのように貢献すればよいか自分の考えをもつ。

【Ⅱ－４－④】

２　ポイント

地域との交流を通して、地域の一員である自覚を高め、交通安全への実践への意欲を高める。



３　指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点　■評価（評価方法）
導入	１　問題を捉える ○前時の学習を振り返り、駅前商店街や商店街の交流を通し学んだことを発表する。	◎前時のワークシートから振り返らせる。 ・地域の方を紹介する。

	○本時のめあてをもつ。 「もてなしの町○○○」の交通安全にどのように貢献すればよいか考えよう	
展開	2　自分の考えをもつ ○めあてに沿って、自分の考えをワークシートに書く。 3　地域の方と交流する【対話】 ○ワークシートに書いたことを、グループごとに発表する。 ○学級全体で、互いのよさを伝え合う。 4　地域の方からの話を聞く ○発表を聞いて、グループごとに評価してもらう。 ○ゲストティーチャーの方に全体の講評してもらう。	◎自己の見方や考え方が変容したことを焦点化する。感謝の気持ちを書くことにも留意させる。 ・地域の子供として、今後どのように地域の交通安全に貢献していけばよいかについて考えさせる。 ◎児童の学びのよさや、地域の願いを伝えてもらう。
まとめ	5　学びを振り返る ○安全学習全体で振り返りを行い「もてなしの町○○○」で育まれる子供としての思いをワークシートにまとめる。	■友達の発表やゲストティーチャーの講評を踏まえ、「もてなしの町○○○」に貢献していく自分の考えをもつことができる。

4　児童の感想から

今回、調査をしてみて地域の人たちは、やわらかいポールを立てて車が急に入ってこられないようにしている所やほとんどの家が「子ども１１０番の家」に協力していることが分かりました。地域の人たちは自分のことだけでなく、私たち子供のことや高齢者の方たちのことも考えて取り組んでいるのだと思いました。また、商店街の人たちも忙しい中、親切に教えてくれてうれしかったです。私にもできることを進んで取り組んでいきたいと思います。

今回の調査を通して、私が一番すごいと思ったことは、地域の人たちが声を掛け合っているということです。私は気付かないうちに、たくさんの人に守られていたのだと知り、とても温かい町だなと思いました。温かい町には、優しい人がたくさんいるので、自然とみんながルールを守れるようになるのかなと思いました。今はまだ勇気がなくてルールを守ることくらいしかできないけれど、いつか声をかけられるようになりたいと思います。

児童の変容

商店街や駅前商店街では、交通安全のためにどのような配慮や工夫をしているのか実際に調査活動を行うことで、自分たちの日頃の安全は、地域の方々の努力に支えられていることに気付くことができた。

また、６年生として自分自身ができることを考える中で、日頃から交通ルールを守っていきたい、調べて分かったことを下級生にも伝えていきたいという気持ちをもつことができた。